

釧路赤十字病院を受診する患者様へ

「下顎骨形成術における下顎神経ブロックの有無による出血量に関する検討」
についてのご説明

1. 研究の目的

当院では、令和6年8月9日より下顎骨形成術に対して、術中術後鎮痛管理のため、下顎神経ブロックを施行しています。

下顎神経ブロック施行以前と施行後で出血量について後ろ向き研究を行い検討します。予想出血量が明らかになることで下顎神経ブロックによる麻酔管理の安全性を高めることができます。

2. 研究の方法・期間

この研究では、カルテや麻酔管理システムより以下の情報を取得します。取得した情報を分析し、下顎骨形成術を受けられた患者さんの臨床的背景、治療方法、合併症などについて検討を行います。

研究期間は令和4年4月1日から令和9年3月31日までの間です。

[取得する情報]

年齢、性別、身長、体重、American Society of Anesthesiologist-Physical Status(ASA-PS)、診断名、術式、既往歴、麻酔時間、手術時間、退室時間、出血量、神経ブロック内容、使用した薬剤、薬剤投与時間、薬剤使用量、疼痛の程度、合併症等

3. 本研究の対象となる人数

令和4年4月1日から令和9年3月31日までに、当院で下顎骨形成術を受けられた患者様

4. 予想される利益および不利益となる事項について

予想される利益としては、予想出血量が明らかになることで下顎神経ブロックによる麻酔管理の安全性を高めることができます。予想される不利益はありません。

5. 研究への参加について

この研究に参加したことによって患者さんに追加の費用負担は発生しません。また、謝礼をお支払いすることはありません。研究の対象者となることを希望されない方又は研究対象者のご家族等の代理人の方は、研究代表者又は共同研究者までご連絡ください。

ただし、あなたが研究参加を取りやめたいと思った時点で、既に研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあな

たに関するデータを取り除くことが出来ず、研究参加を取りやめることが出来なくなります。

6. 患者さんの個人情報の保護について

研究結果は、集計・評価し、論文として医学会、雑誌等に発表する予定ですが、研究で得られた情報は、個人が特定できないように、患者さんのお名前ではなく登録番号で管理しますので、個人情報は常に保護されます。研究代表者は患者さんの情報や資料を保管する時は、情報等の漏洩、盗難、紛失等が起こらないよう必要な管理を行います。分析終了後、データは破棄し、プライバシーの保護に努めます。

7. 利益相反について

研究結果および結果の解釈に影響を及ぼすような利益相反はありません。

8. 研究代表者、共同研究者について

研究代表者

岡島愛美（釧路赤十字病院麻酔科 医師）

共同研究者

鷹架博之（釧路赤十字病院麻酔科 医師）

岩田千広（釧路赤十字病院麻酔科 医師）

松井拓郎（旭川医科大学麻酔・蘇生学講座 医師）

9. 相談窓口について

この研究について知りたいことや、ご心配なことがありましたら、遠慮なく担当医師等にご相談下さい。

連絡先 電話 0154-22-7171